

第41回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2003年12月9日（火）10：30～10：55
2. 場 所 中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室
3. 出席者 藤家委員長、遠藤委員長代理、木元委員、竹内委員
内閣府
藤嶋参事官（原子力担当）
社団法人日本原子力産業会議
アジア協力センター 中杉マネージャー
4. 議 題
 - （1）第4回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合の結果について
 - （2）核燃料サイクルについて語る会（六ヶ所村）について
 - （3）その他
5. 配布資料
 - 資料1 第4回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合の結果について（報告）
 - 資料2 核燃料サイクルについて語る会（六ヶ所村）- 説明と意見交換 -
 - 資料3 第40回原子力委員会定例会議議事録（案）
6. 審議事項
 - （1）第4回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合の結果について

標記の件について、藤嶋参事官より資料1に基づき説明があり、以下のとおり発言があった。

(遠藤委員長代理) これまでのF N C Aは、各国に共通するものとして放射線利用の議論が中心であった。原子力発電については、実施国は日本、中国、韓国だけなので、議題に取り上げられにくかった。しかし、ベトナムは2016年頃から原子力発電を導入する方針を打ち出しており、また、インドネシアも将来的には石油の正味輸入国になることも考えられるということで、2015年頃からの原子力発電の導入について再検討している。このように、原子力発電に関係する問題について議論しよう、という意見が出掛かっているところである。

「持続可能な発展と原子力エネルギー」についてだが、これまでは、マレーシアは「持続可能な発展」と「原子力エネルギー」は関係がないと明確に言っており、タイやオーストラリアは態度が曖昧であった。今回の会議では、少なくとも「持続可能な発展」と「原子力エネルギー」には関係があるということについては多くの国が認めるようになった。そこで、どのような関係があるのかについて、F N C Aの下に新しいパネルを設けて検討し、早急に結論を出そうということになった。また、これまではC D M (クリーン開発メカニズム) に原子力発電が入っていなかったが、C O P (気候変動枠組条約締約国会議) で定める第2約束期間ではC D Mから除外させないようにしようということについても多くの国が認めるようになった。これについては、今まで触れられなかったところだったが、かなり前向きになってきたと考えている。

また、今回のF N C Aでは、茂木科学技術政策担当大臣は中国や韓国と二国間の会談をされ、藤家委員長と私はベトナム、インドネシアや中国と二国間の会談を行った。F N C Aではこのように二国間の会談も行うことができ、このような点もF N C Aを開催するメリットだと思う。

(木元委員) 遠藤委員長代理の発言した点については、私も強い関心を持っており、やらなければならないことだと思っている。今、復興支援でイラクに自衛隊を派遣することが議論になっているが、日本は石油を中東に90%ぐらい依存しており、石油関連の視点でもクローズアップされている。昨日の資源エネルギー庁の総合資源エネルギー調査会需給部会でも、石油を安定的に確保するためにはどうすべきか、ということについて最初に取り上げられている。今回の部会では原子力について取り上げられなかった

が、F N C Aでは原子力とC D Mについて考えていた。遠藤委員長代理の発言のとおり、検討の場を設けて種を作ろうとする際には、石油獲得が戦争を引き起こす事実を踏まえ、地球的な平和のためという大前提から原子力の平和利用、それから、エネルギーをどのように確保していけば良いか、ということについてきちんと論議していくと良いと思う。つまり、基本的なところから検討していくことを是非やってほしい。その検討の中で、エネルギー利用における原子力のメリット・デメリットが出てくると思う。C D Mについては、原子力エネルギーが地球温暖化対策に寄与することをよりクリアに言わなければならないと思う。環境問題については、取り上げないのではなく、取り上げるべきものであり、その中で、原子力は世界に平和をもたらすために必要なのだ、ということを経験する。また、次のステップでは、エネルギーを利用して食糧生産を増やすという方向も出てくると思う。目先のことばかりでなく、マクロな観点から原子力の可能性が見えてきたと感じている。

(竹内委員) アジアの方とは、会う回数と語り合う時間をたくさんとることが重要だと思う。とても親近感がある方々なので、語り合うと相手をさらに理解することができ、自分の国と相手の国の関係が分かるようになってくる。今回の会議では特に強く感じられ、実りのある会議だったと思う。放射線利用については、国によって得手不得手があるが、研究開発機関とエンドユーザー間の関係についてなどクローズアップして議論ができた。放射線利用については、東南アジアでは特に効果があるので、このような議論ができたことは非常に良かったと思う。C D Mについては、議論がかなり進んで、収束してきたのではないかと思う。C D Mと原子力については、今後も日本がリーダーシップをとって議論していくべきだと思う。

(木元委員) そのとおりだと思う。だから、原子力委員会としては、F N C Aでこのような議論をした、ということを経験する国内外に向けてきちんと言っていかなければならない。

(中杉マネージャー) 今回のF N C Aでは、各委員が発言されたとおり、アジアの方々とフランクに議論することができたと思う。外交の場では、きれいな言葉だけで終わってしまうこともあるが、今回の会議では実質的な議論ができた。特にエネルギー問題について、従来は、マレーシアやフィ

リピン、オーストラリアはややネガティブに考えているところがあったが、今回は曖昧だったところが修復され、腰を据えて持続可能な発展と原子力エネルギーの研究を進めていこうということが明確になった。大変ありがたいことである。放射線・ラジオアイソトープ利用については、マレーシアから、核医学診断のプロジェクトを自ら主導的に行う提案をしてきた。このような提案は、途上国側からとしては初めてのことである。日本のリーダーシップに期待しながらも、彼らなりにこの地域に貢献しようとする姿勢が明確に出てきた。今後も、原子力委員会のご指導の下で、関係省庁、特にプロジェクトを支えていただいている文部科学省からご支援をいただき、できれば医療や農業の分野など他の省庁からもご支援をいただき、F N C A 各国とのパートナーシップに基づいて展開していきたいと考えている。

(藤家委員長) 今回の会議は実りがあったと思う。特に中国の積極的な発言は強く印象に残った。この場を通して何かをやっていこうという意思表示は、他の国も同じように感じたと思う。ベトナムも、個人的に話を聞くと、かなり積極的な考えを持っていた。また、F N C A を自国で開催したいと考えている国が増えてきている。次回はベトナムで開催されるが、その次はマレーシアやフィリピンがそれぞれ開催を希望しており、中国もその意志があるとのことである。議論の内容が、少しずつ放射線利用から原子力発電にも範囲が広がってきているのは、アジアの急速な経済発展を考えると、原子力に頼らざるを得ないという気持ちがそれぞれの国で浸透してきたからだと思う。アジアの人口は約30億で、世界の半分を占めており、そこでどのようにしていくのか。また、今回のF N C A では、かなり打ち解けることができ非常に良い議論ができたが、これは当日の会議だけでできたことではない。二国間の会談や懇談等いろいろとやってきたことが、この結果につながっているのだと思う。このようなことは、是非次の代にバトンタッチしたいと思う。非常に有意義な会議だったと思う。関係者の皆さんにお礼を申し上げたい。

(木元委員) 沖縄で開催したという点も大変意義があったと思う。平和の問題についてだが、那覇から会場までの道の脇には嘉手納基地があった。フィリピンの代表と朝食をご一緒したときに、「ここに来るまでに広大な基地

があったが、フィリピンも同じである。今、そこにイラク対応の飛行機が2機来ている。」とおっしゃっていた。そうしたこともあって、石油産出地域で争いがあることを考えると、エネルギーの安定供給や原子力の平和利用という観点からももう少し議論した方が良いのではないかと私個人としては強く思っている。帰路も車の窓から基地を眺めながら帰ったが、他の方々もいろいろなことを感じられたのではないだろうか。直接的な関係はないかもしれないが、世界が平和で安定的であるために、FNCAが原子力を通してどのようなことができるのか、というような精神を大切にしていきたいと再確認した。

(2) 核燃料サイクルについて語る会(六ヶ所村)について

標記の件について、藤嶋参事官より資料2に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(木元委員) 資料の「3. 参加者」には一般の方々について記載がないが、一般の方々は参加できないのか。

(事務局) 語る会は、公開して開催する。

(木元委員) その旨明記した方が良いと思う。

(3) その他

- ・事務局作成の資料3の第40回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。
- ・事務局より、12月16日(火)に次回定例会議が開催され、また、12月24日(水)に次々回臨時会議が開催される旨、発言があった。